

あとがき

〈編集顧問〉

太田 保世
諏訪 邦夫
広沢 弘七郎
堀江 孝至
村山 正博

〈編集委員〉

相澤 久道
石坂 彰敏
和泉 徹
小川 聡
永井 良三
三嶋 理晃

〈編集協力委員〉

赤石 誠
赤柴 恒人
北風 政史
近藤 哲理
中沢 潔
(五十音順)

大気中の二酸化炭素濃度の上昇が地球の温暖化を引き起こしている。フロンガスやメタンガスは二酸化炭素よりもさらに強力な温室効果を持つという。温暖化は海水面上昇だけでなく、海岸の侵食、内陸の砂漠化、台風の巨大化など多くの影響が懸念される。快適な現代生活の代償としての環境破壊は、ついに人類の生存自体をも脅かしはじめたようだ。部分最適化は必ずしも全体最適化に一致しないという一例であろう。

医療においても資源の配分や活用を真剣に考えなければならない時代となった。とくに循環器診療はカテーテルやステント、ペースメーカーなど高額な医療器材の使用が多い。このため薬剤費や医療機器などの経費の診療報酬に占める割合、すなわち医療経費率が血液疾患や外科疾患を含めて他のいかなる分野よりも高い。その原因が循環器医による過剰な医療器材の消費によるためか、それとも医療器材の内外価格差によるものなのか、あるいは技術料が低いいためなのか、今後詳細な調査研究が必要である。

しかしながら、わが国の冠動脈インターベンションやIVUSの実施件数が、欧米に比べてはるかに多いのも事実である。医療技術が発達段階にあるときには様々な試行錯誤が必要である。しかしながら方向性が確定した後は、できるだけ標準化した診療を進めるべきであろう。標準術式を超えた医療については、それがどのような場合に必要なのかを示すエビデンスが求められる。不整脈診療においても多くの臨床研究を踏まえて、近年、非薬物療法の重要性が高まってきた。しかしながら、やはり高額の医療機器を使用する以上、その適応と成果については常に検証が必要である。

限りある医療資源を効率的に活用し、できるだけ公平に国民に提供するには、医療システムの研究が必要である。困難な課題ではあるが、地球温暖化問題に比較すれば十分に成算があると思う。(永井良三)

呼吸と循環 (第55巻 第1号)

2007年1月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5%)

(2007年、年ぎめ予約購読料 31,800 円)
(税込み、配送料弊社負担)

E-mail: kotojun@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kotojun>

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5703

(担当: 菊池・山崎)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三美印刷株式会社 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (株) 医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan.

• 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS (株) 日本著作出版権管理システム委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。